

通巻850号を迎えてー第7代編集委員エッセイ

Modern Media



私にとっての『モダンメディア』

東京慈恵会医科大学 内科学講座（感染症内科）/
同附属病院 感染症内科 教授/診療部長

ほり の てつ や
堀 野 哲 也

Tetsuya HORINO

2024年4月に『モダンメディア』の編集委員を拝命する前は、モダンメディアに掲載された論文を冊子やインターネットでときどき読んでいました。特にインターネットに掲載されるようになってからは、病名や微生物、検査法を検索すると上位にヒットするため、読む機会が多かったように思います。SNSやネットニュースなどでさまざまな情報があふれていますが、その真偽はあきらかでないものも多く、情報の捉え方には注意が必要です。モダンメディアでは、それぞれのテーマの専門家がさまざまな学術論文を引用して、わかりやすくまとめられており、いつも参考にさせていただきました。ただ、学生の頃の試験への取り組みと同じで、困ったときには頼りにしても、必要な情報を得た後は次に必要になるきっかけがなければ読むことはありませんでした。つまり、私にとって『モダンメディア』とは、自分が必要なときに必要とするテーマをわかりやすく教えてくれる学術情報誌のひとつであったように思います。

編集委員を拝命してからは、モダンメディアに掲載されたすべての論文を定期的に拝読するようになりました。担当させていただいている「原因微生物の推定・同定のための検査法」や「基礎・臨床の両面から見た耐性菌の現状と対策」などで

は、エキスパートの先生方にわかりやすく解説していただいて、自分の知識が整理されるとともにアップデートされ、抜け落ちている点を補完することもできています。また、第71巻（2025年）1月号の新春放談で取り上げていただいた「ワンヘルス・アプローチ～AMRの現状と今後の課題」では人・動物・環境における薬剤耐性菌について、課題と進展、展望についてご教授いただき、とても勉強になりました。担当したコンテンツだけでなく、モダンメディアには「話題の感染症」や「臨床検査アップデート」、「社会における感染症」など、さまざまなコンテンツがあり、今まで触れたことのなかったトピックでは新たな知識を獲得し、自分の興味を惹く対象がより広く、深くなっているような気がします。そう考えると、私にとって『モダンメディア』は必要な情報が得られるというだけでなく、医学や公衆衛生の分野をより面白くしてくれる学術情報誌になっています。

これからは編集委員の一人として、『モダンメディア』が知識の整理とアップデート、さらに新たな情報を提供することで、読者の方々にとって有益な医学と公衆衛生に関する学術情報誌であり続けるよう尽力いたします。

モダンメディア 71 巻 1 号 2025 〔新春放談〕 1

新春放談

ワンヘルス・アプローチ
～AMRの現状と今後の課題

語り手

- 東 剛志 先生 (大阪医科大学 大学院薬学研究科 講師)
 白井 優 先生 (酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 教授)
 具 芳明 先生 (東京科学大学 感染症センター(TCIDEA)、
 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野 教授)
 西 圭史 先生 (日本大学薬学部 薬剤師教育センター センター長、教授)

(五十音順)

聞き手

- 堀野 哲也 先生 (東京慈恵会医科大学 感染制御科 教授/モダンメディア編集委員)
 壁谷 英則 先生 (日本大学 生物資源科学部 獣医学科 教授/モダンメディア編集委員)

令和 6 年 11 月 11 日収録

